



#### インタビュー

ファイブロ材料の探求を出発点に

人と環境に優しいものづくりを学ぶ

#### 人物往来

再びの京都で、寒さをも楽しんでいきます

#### 特集

歴史遺産と現代生活との調和

#### トピックス

- アジア・アフリカ学術基盤形成事業  
「ネオ・ファイバーテクノロジー」最終セミナー
- 茶道、書道、着物—日本文化を体験しよう
- KIT創立60周年を記念して

京都工芸繊維大学  
国際交流センター

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地

Tel:+81-75-724-7129 Fax:+81-75-724-7710

E-mail:ab7129a@jim.kit.ac.jp

<http://www.kokusai.kit.ac.jp/japanese/>

<http://www.kit.ac.jp/>

## 専攻長インタビュー ■ 先端ファイブプロ科学専攻

ファイブプロ材料の探求を出発点に  
人と環境に優しいものづくりを学ぶ

先端ファイブプロ科学専攻長

大学院工芸科学研究科 先端ファイブプロ科学部門 教授

濱田 泰以



科学や工学の分野においても「感性」や「環境」という視点がいきま、とても重要になっていきます。その社会的要請にいち早く応えようと本学では1998年4月、「先端ファイブプロ科学専攻」を設けました。開学以来、テキスタイルや製品づくり、そのリサイクルについて研究してきたグループと、電気・電子の人間工学を研究してきたグループ、これら二つの流れを受け継ぎ、繊維に関わる新しい学際的科学分野としてスタートしたのです。「ファイブプロ」は「ファイバー状の」という意味です。本専攻では、その名が示すように繊維をメインの研究素材としながら、繊維にとどまらない幅広い分野に応用できる考え方の構築をめざすとともに、次代のものづくりへの貢献とそれを担う人材の養成を目的としています。

本学の大学院で唯一、学部の課程をもたない「独立専攻」であることから、そのカリキュラムはユニークです。繊維とは無縁の経歴をもつ人も入学してくるため、まずテキスタイルサイエンス（材料とプロセス）の基礎を学びます。さらに、(1) コンボジック・マニユファクチュアリング (2) ナノエンジニアリング (3) 感性工学・ヒューマンインタフェース (4) サステイナビリティ（テキスタイルのリサ

イクル、劣化、寿命」といった「専門的な内容」と、産学連携インターンシップ、セミナーの企画・運営、国際化「コミュニケーションなど」「専門以外の実践的な内容」を並行して学べるカリキュラムを組んでいます。将来、専門の技術をより有効に活かす素地を養うために、専門以外のカリキュラムを充実させているのが大きな特長です。

私たちがもっとも大切にしていることは、繊維は研究対象の一つであって、あくまでも考え方が重要だということと、「あの山に登ろう」という目標を提示されたときに、どのようにして登るかを考えられるかどうか。道をつけて登る。ロープウェイをつくる。うまくいかなかったら、もう一度ちがう道をつくる。自分なりの方法を考えて行動に移す力をつけるのが、修士課程の2年間です。さらに博士課程の3年間では、「あの山に登ろう」と言える先見性や判断力を身につけることを目標としています。研究所であれば、「この研究をしたら世の中の役に立つ」、企業であれば「あの山に登ったら儲かる」と言える人です。さらに、交渉力やリーダーシップを発揮して組織を動かす、山にアタックをかけられる人材になってほしいと願っています。

そのような人材を養成するために「5年一貫教育」

を一つの方針に掲げています。1年ごとのステップを着実に積み重ねることによって、あらゆる業種・職種に応用の利く力が身につきます。

たくさん留学生を受け入れていることも、海外への留学をめざしたり、将来、海外で仕事をしたたりするうえで役立つ体験の場をつくりだしているといえるでしょう。ナイジェリア、タイ、中国、マレーシア、モンゴル、トルコなどからたくさん留学生が来て一緒に学んでいます。社会人などを除くと約半数が留学生という研究室もあります。日本語を話せない留学生が多いので、「コミュニケーションをとるためにはもっぱら英語で話すことになります。習慣のちがいにお互いに戸惑うこともあります。苦勞しながら英語で「コミュニケーションすることや、異文化にふれることは、日本人学生にとっても、留学生にとっても、とても貴重な体験になっています。

ここで5年間じっくりと学び、さまざまな経験を積んでほしい。社会に出るときには「どの山に登るか」を決められる人に成長し、「人と環境に優しいものづくりで明日を切り拓く人材」として、社会へ羽ばたいて行ってほしいと思います。

# 再びの京都で、寒さをも楽しんでいきます

## ダイ・チィ・シュアン・トラン

大学院工芸科学研究科博士後期課程 機能科学専攻 2006年修了  
ベトナム カント大学理学部生物学科講師

DAI Thi Xuan Trang: 元国費（日本政府）留学生。カント大学生物工学研究所で修士号取得後、2002年10月から2006年3月までKITへ留学、博士号を取得した。2009年秋に日本学生支援機構（JASSO）帰国外国人留学生短期研究制度により、3ヶ月間KITに戻り、抗マラリア薬に関する研究を深めた。



日本に来る前、つまり高校生のときから、私は日本が第二次世界大戦後、急速に経済成長を遂げた先進国だと知っていました。これは日本人たちの鍛錬と勤勉により成し遂げられたのだと教わりました。ベトナムもまた、1975年に終結したあの戦争の後、苦悩の時代にありました。状況は非常に困難でしたから、私は先進国で学ぶチャンスをつかむために真剣に勉強しました。そうして、カント大学からKITへ留学した初めての学生となったのです。

初めて来日したとき、京都はとても静かな町で、人々はとても礼儀正しいと思いました。今でも思い出されるのは、自転車でトラブルが起きたときのことです。私が途方に暮れていると、ある老人が助けてくれたのです。私の自転車がパンクしていたので、その老人はパンクしたところにあてるパッチについて教えてくれ、私が修理するのを手伝ってくれました。また、京都の厳しい冬の寒さは大丈夫かと尋ねられたこともあります。気候の違いは全然問題ではありませんでした。私は京都の気候が好きです。雨期と乾期のあるベトナムの気候よりもずっと快適だと思っています。ベトナムには三つの気候があると言われているのですが、暑い、もっと暑い、とっても暑い、の三つなんです（笑）。

カント大学は、世界中の大学と協定を結んでいます。学生たちが留学する方法の一つはこの協定です。また、カントの学生はとても積極的なので、多くの学生が外国語に堪能で、自ら留学プログラムを見つけていきます。これが留学するもう一つの方法です。私が留学生たちに留学を勧める必要もないのです。ベトナムの学生たちにとって現在、日本がいかに人気のある留学先であるか、ひとこと語るのには難しいですね。私の個人的な体験からいうと、私が留学した当時はKITには私の他にベトナム人は一人しかいませんでした。けれどもいまや、14人もベトナム人学生がいます。カント大学の学生はアメリカよりも、英語が第二言語であるヨーロッパに行



2009年10月から12月まで、トランさんは亀井加恵子准教授の研究室で集中的に実験に取り組みました。「亀井先生には留学当時から指導いただいています。先生は毎年1度か2度、ベトナムを訪れ、今でも私の研究を支援し続けてくださっています。」

く傾向があります。アメリカで英語がネイティブの学生たちと競うのは大変ですから。

これは決して日本語がたやすく習得できる言語であるということではありません。私は最初の日本滞在中に、日本語の入門レベルからそれほど上達できませんでした。言語コミュニケーションは私の得意とするところではないようです。たとえそれがベトナム語であっても、物事を上手く説明できる人もいますよね。けれども、そのような能力のない者でも優れた研究はできるものなんです。

今回私は、KITの研究室で3ヶ月間過ごしました。試験管レベルのスクリーニングによって、マラリア原虫の増殖を抑制する可能性のあるベトナムの植物を見つけました。そして構造を解析するために、HPLC（高速液体クロマトグラフィー）によって抗マラリア候補化合物を単離しました。現在ベトナムではこの分析に必要な装置がありませんので、他の大学の協力は私たちにとって不可欠なのです。

抗マラリア薬は中国やベトナムで育つヨモギ属の植物から作られてきました。1992年から96年の間に、ベトナムにおけるマラリアによる死者数は90%減少し、患者数も40%減少しました。今では山間部で流行しているだけののです。私の故郷はメコンデルタですが、そこではマラリアは問題ではありません。しかし、マラリア原虫は現在使われている抗マラリア薬への耐性をすぐに獲得するため、新しい抗マラリア薬の開発が必要とされるのです。最終的には私の研究成果が、ベトナムの植物からの有効な薬の開発に繋がると思っています。

今回、私が日本にきている間、夫とおばが息子の面倒を見てくれています。ベトナムでは女性が仕事に力を感じたり、勉学を深めることは困難を伴いがちです。しかし私の夫は、私の仕事に大変理解を示してくれていて、私がさらに勉強するよう励ましてくれています。結婚して子供を授かったあとで男性と同じくらい長時間働くことは簡単なことではありませんが、ベトナムの高等教育機関における女性を取り巻く状況は向上していると思います。



「着物で行く紅葉の清水寺」ツアーに参加したトランさん（左から3番目）、着物姿でベトナム人留学生たちと写真に収まりました。「今、KITにはたくさん留学生がいますね。皆が熱心に勉強し、日本のすべてを楽しみ、世界中から集まっている人たちとよい関係を築いてほしいと思います。」

日本学術振興会 若手研究者交流支援事業 — 東アジア首脳会議参加国からの招へい —

## 歴史遺産と現代生活との調和

— タイ王国におけるマネージメント戦略の構築に向けて

2009年8月24日から9月28日までの約4週間に渡り、タイ王国のチュラロンコン大学、キングモンクート工科大学トンプリ校、カセサート大学から、あわせて若手研究者3名及び大学院生7名を日本に招聘した実地研修がKITで開催されました。これは、日本学術振興会若手研究者交流支援事業によるもので、文化的景観や世界遺産の実態、まちづくりや町並み保存の様相、町家保存のあり方など、建築と建築をめぐる日本の現状を学ぶプログラムです。京都市内だけではなく、伊根などの丹後地方、瀬戸内周辺の伝統的な町や近代的な企業城下町など、さまざまな町や建築物、修復現場を訪れました。また、瓦製作など京都の伝統工芸の工房や古美術を修復する工房などを訪れ、有形・無形文化財の保存の仕組みと現代社会への対応の実態に触れる機会を得ました。見学旅行や成果発表会には本学の教員・学生も多く参加して、交流を深めました。

ここに、招へい研究者のコメントをご紹介します。本プログラムに参加する機会をもてたこと、様々な分野の教授や専門家の尽力、そして京都で得られたいつまでも心に残る感銘と友情に対し、どなたも心からの感謝の意を表されました。



日本での実地研修に備え、7月には本学教員がバンコクで日本建築史や木造建築に関する講義を行い、ゼミ形式で問題点の整理をしました。

日本の有形無形の文化財を次世代へと引き継いでいく、入念で体系化された一連の過程は、日本文化そのものの特質の表れのように見受けられました。

Mr. Bordin Jotinandana

この26日間、講師の先生方は私たちに日本建築について簡潔に話して下さいました。

私たちはまた、屋根の釘打ちの細部から銅山の地下技術に至るまで学ぶことができました。

Dr. Chanan Munkong

文化財の保護とは時空を凍結する試みであるのかもしれませんが、これはもちろん日本だけのことではありません。都市計画から工芸まで、京都は幾層にも積み重なった文化を体験できる場所です。

Ms. Hansa Srietchaipani

京都以外の都市を見ることで、京都の独自性が際立って感じられました。年齢を問わずすべての人々が大切にされていること京都で学んだ保存と開発の知識を、タイに戻ったら生かしていきたいと思っております。

Ms. Issariya Mongkolpithayathorn



専門家の方々が建築現場について話をし、工芸品制作の実演をして下さいました。茶道を経験し町家を訪問したことは、特に思い出深いものとなりました。

Ms. Monsinee Attavanich

とても充実した学術体験でした。もっと時間に柔軟性があり、日本とタイの学生による共同研究が進んでいる中で行われたのであれば、この体験はさらに深いものとなったでしょう。

Ms. Preeyachan Saisakares

京都は現代社会においてその歴史的存在価値を維持することに成功してきました。京都は伝統的な生活様式が現代社会にもうまく取り入れられることを実際に示している、生き証しなのです。

Ms. Sirinda Tanettakool

私は数々の素晴らしい文化遺産に魅了されました。文化遺産保護を推進する者として、私はこの経験をタイ王国で生かしていきたいと思っております。

Mr. Treechart Lookaewnoo

## 実地研修スケジュール

8月25日	知恩院・清水寺修復現場見学
8月26日	奈良文化財研究所、東大寺、平城宮跡見学
8月27日	障壁画講義、墨仙堂（古美術修復）見学
8月28日	京都市内再生町家および修復現場見学
8月31日	旧弘道館見学（茶道体験、実測）
9月1日	美術工芸資料館（エキスポおよび教員展）見学 大阪の空堀、法善寺横丁路地再生例見学
9月2日	京壁工房、京瓦工房見学
9月3日	鋳金具工房見学
9月4日	美術工芸資料館（染織資料、漆芸資料）見学、下鴨神社見学
9月5日	阿波浄瑠璃見学
9月7日	冷泉家住宅見学
9月8日～9日	小浜、伊根、出石などを訪問、町並みや建築を見学
9月10日～13日	広島、厳島神社、鞆の浦、尾道、旧別子銅山、 倉敷などを訪問、町並みや建築を見学
9月15日	今日庵見学、京都市景観施条に関する講義
9月16日	招へい研究者による研究発表会



私達は、数々の保存活動の試みについて、成功している事例や論争的となっている事例から、見識を深めることができました。また、通常であれば立ち入ることのできないような保存活動の現場に入ること、実体験を通して学ぶことができました。

Dr. Saitiwa Ramasoot

Dr. Tertsak Tachakitachorn

## アジア・アフリカ学術基盤形成事業「ネオ・ファイバーテクノロジー」最終セミナー

日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業により3年にわたって行われてきた「次世代型繊維科学研究『ネオ・ファイバーテクノロジー』学術基盤形成事業」の最終セミナーが12月1日～4日までKITで開催されました。海外の拠点機関・協力機関である6大学から招へいされた研究者による研究成果発表が行われたほか、パネルディスカッションではこれまでの共同研究や5回のセミナーの総括がなされました。本事業で確立された研究者間のネットワークと学術基盤を今後も維持し、参加者が中核となって共同研究を継続していくことが盛り込まれた共同宣言に全大学の代表者がサインをし、セミナーは幕を閉じました。

### 参加大学

日本：京都工芸繊維大学 / 韓国：嶺南大学 / 中国：東華大学、浙江理工大学、香港理工大学  
ベトナム：ハノイ工科大学 / エジプト：ヘルワン大学



共同宣言にサインをした各大学のコーディネーター  
Coordinators from each university signed the declaration

## 茶道、書道、着物—日本文化を体験しよう

2008年度から始まった茶道教室は、まりこうじ会館での定期的な教室のほか、七夕や早春には地域に開かれた茶会が催されるなど、季節の風物詩となってきました。今年度からは、松ヶ崎キャンパスで書道教室も始まりました。学外からお招きした徳永博明師範の週1回の指導により、留学生たちの腕はめきめき上達しています。紅葉が見頃を迎える11月には、清水寺界隈の散策ツアーを行いました。自分で着物・帯・小物を選んで着付けと髪結いをしてもらうというこの企画への関心は高く、40名を越える留学生が参加しました。その本格的な着物姿は行き交う観光客の注目を集め、色とりどりに染まる紅葉の清水寺にひとときわ艶やかな華を添えていました。また、2月には初めて節分大会が催されました。豆を撒くのも黙々と太巻きを食べるのも初めてという留学生が殆どで、不思議がりながらも楽しんでいました。

日頃勉学や研究で忙しい留学生たちも、普段とは異なる表情を見せる日本文化体験イベント。反響の大きさに後押しされて、今後も一層活発になっていくことでしょう。



徳永師範に書道の指導を受ける留学生  
A student tries calligraphy initiated by Mr. Tokunaga

## KIT 創立 60 周年を記念して

2009年、KITは新制大学としての創立60周年を迎えました。様々な記念事業が開催される中、国際交流センターではアジア各国において国際セミナーの開催やKIT国際学術交流クラブ連絡事務所でのプレート贈呈式を行いました。また、日本学生支援機構の日本留学フェアに参加したほか、各地の協定大学にも訪問し、海外インターンシップ事業や学生の短期交換留学プログラムなどについて協議しました。



創立60周年を記念し製作されたKIT国際学術交流クラブ連絡事務所プレート  
KIT International Academic Exchange Club Key Station plaque, presented in commemoration of the 60th anniversary of KIT national university status



台北連絡事務所でのプレート贈呈式  
Taipei Key Station plaque presentation ceremony



韓国・嶺南大学で元交換留学生と懇談  
Meeting with former exchange students from Yeungnam University in Korea



ご意見・ご感想をお寄せください!

KIT国際学術交流クラブ連絡事務所をお読みいただきありがとうございます。皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。  
e-mail: [ab7129a@jim.kit.ac.jp](mailto:ab7129a@jim.kit.ac.jp)

### 国際学術交流クラブについて

このクラブは、本学の卒業及び在学外国人留学生、元・現国際訪問研究員、学術交流協定校の教職員など多くの方々により組織されている世界的なネットワークで、本学が国際社会の学術的な発展と科学技術の振興に貢献するための

一翼を担うことを目的としています。

入会のお申し込み等についての詳細は本学のホームページをご覧ください。

[http://www.kit.ac.jp/07/07\\_070000.html](http://www.kit.ac.jp/07/07_070000.html)

### Join the KIT International Academic Exchange Club!

This club is a global network for international academic exchange. Its members include current and alumni/alumnae international students, researchers, and members of partner institutions involved in academic exchange with KIT. The club was founded to enable KIT to contribute

to academic development and promote science and technology internationally. For detailed membership information, please visit the KIT website: [http://www.kit.ac.jp/english/05/05\\_060000.html](http://www.kit.ac.jp/english/05/05_060000.html)